

全身麻酔中のレミフェンタニルがプロポフォールesT EC(estimated target-effect-site concentration)に及ぼす影響

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2016-11-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 畔柳, 綾 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.20780/00023889

様式 (6)

学 位 審 査

学 位 番 号	乙 第 2902 号	氏 名	畔柳 綾
審 査 委 員 会	主 査 教 授	山本 雅一	
論文審査の要旨 (400 字以内)			
<p>BIS で表現される鎮静レベルとプロポフォール効果部位濃度の組データを全身麻酔導入直前から収集し、両者の回帰関数をリアルタイムに求めることで、各時刻で希望する BIS 値を得るのに必要な効果部位濃度(esTEC)が算出される。予定患者 14 名を対象に、全静脈麻酔で管理した場合のレミフェンタニル効果部位濃度がプロポフォール esTEC に及ぼす影響を検討した。esTEC の分布には個人差が認められたが、レミフェンタニル効果部位濃度が上昇すると esTEC は低下するとともにその分布幅は減少し、10ng/ml 以上では esTEC の分布幅は一定となった。以上から、レミフェンタニルの効果部位濃度と esTEC の相互作用が確認された。これらの研究結果により、安全確実な麻酔管理が実現できると考えられた。</p>			
<p>本要旨は当該論文が第二次審査に合格した後の 1 週間以内に学務部医学部大学院課へご提出下さい。(本学学会雑誌に公表) [学校教育法学位規則第 8 条]</p>			